

○皇天：天の敬称。又天の主宰神。

『書経』「大禹謨」に「皇天眷命、奄有四海、奄有四海、為天下君（傳）言堯有此德、故為天所命」の用例が、又『楚辞』「九章 哀郢」に「皇天之不純命兮、何百姓之震愆」の用例が見える。『漢語大詞典』には「対天乃天神的尊称」として『楚辞』「離騷」の「皇天無私阿兮、覽民德焉錯輔」の例を引く。『白氏文集』²⁸²⁰「予與微之老而無子。發於言歎。著在詩篇。今年冬各有月一子。戲作二什。一以相賀。一以自嘲」に「陰德自然宜有慶、皇天可得道無知」の句が、又同じく²⁷⁸³「哭微之二首」に「妻孥朋友來相弔、唯道皇天無所知」の句が見える。『菅家文章』⁴⁷「哭菅外史、奉寄安著作郎」に「命矣皇天相與奪、高才不過傳先存」の句が見える。↓
補説

3○職 ……ここでは太宰権帥を指す。昌泰四年（九〇一）正月二十五日、道真らの左遷決行がなされたことが、

『日本紀略』の中で「諸陣警固。帝御南殿。以右大臣從二位菅原朝臣任大宰権帥。以大納言源朝臣光任右大臣」と記す。この道真の左遷の事情については、所功氏の論文に詳しい。（菅原道真の配流）¹『菅原道真と太宰府天満宮上』²）以下、いちいち断らないが、歴史的背景の記述は、この所氏の学恩に拠る。

○西府：九州。太宰府の別称。

『菅家後集』⁴⁹⁰「雪夜思家竹」に「西府與東籬、關山消息絶」の句が見える。

4○名何替左遷：道真は、昌泰四年（九〇一）正月七日に、藤原時平とともに從二位に叙せられ、右大臣となつた。そして正月二十五日に突如として『政事要略』等に記載せる醍醐天皇の宣命によって、大宰権帥の左遷が命ぜられたことを言う。川口久雄氏が岩波古典文学大系本の頭注で言及されているように、「右